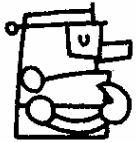


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

動脈と静脈って、どちらがうの



動脈は、^{しんぞう}心臓が送り出す血液が流れる血管で、静脈は、
全身から心臓にもどってくる血液が流れる血管なのさ。

心臓から出る、酸素が多い血液が流れている血管が動脈

人間が生きて活動できるのは、血液が全身に必要な酸素や養分を運び、体内でできた二酸化炭素などのいらぬものを集めてくれるからです。この血液を全身に送り出すポンプの役目をしているのが、心臓です。

心臓から送り出される血液が流れる血管を動脈、全身から心臓にもどってくる血液が流れる血管を静脈といいます。

心臓がぎゅっとちぢんで血液をおし出すので、強い血液の流れにたえられるように、動脈の血管の^{きんにく}筋肉は、厚くてのびぢみしやすくなっています。手首などに指を当てると感じる事ができる脈はくは、この心臓がちぢんで血液をおし出すときにできるもので、動脈で伝わってきます。静脈では、脈はくを感じることはできません。動脈の血液は、酸素をたくさんふくんでいます。

心臓にもどってくる、二酸化炭素が多い血液が流れている血管が静脈

静脈は、血液の流れがゆるやかなので、動脈とくらべると血管の筋肉はうすいです。静脈の中の血液は、ちぢんでいた心臓がもとの大きさにもどるとき、^す吸いこまれるように心臓に入ります。全身をまわってきた静脈の血液中には、酸素はへって二酸化炭素がふえています。心臓は、この静脈の血液を^{はい}肺に送り、肺で血液中の二酸化炭素と、吸いこんだ空気中の酸素を交かんします。酸素をたくさんふくんだ血液が肺から心臓にもどってくると、また、動脈から全身に送り出されます。

皮ふの表面にすけて見える血管は、ほとんどが全身から心臓にもどる血液が流れている静脈で、動脈は、もっと皮ふの下のほうを流れているため、見えません。

もっと知りたい人へ：「血液が体内をひとめぐりすると、何回心臓を通るの」も見てみよう。